

常盤の湖上交通史

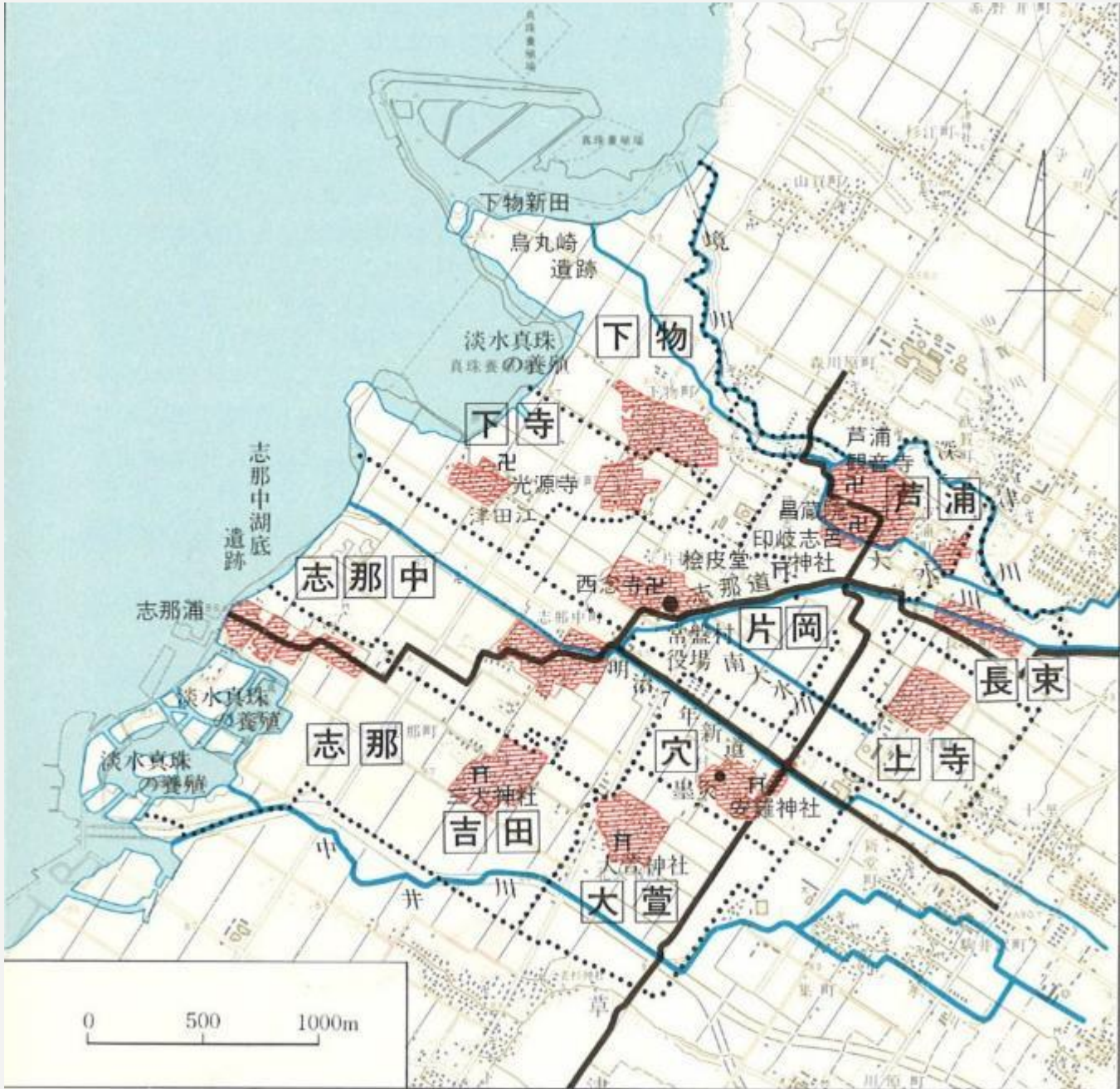
@UDCBK未来創造セミナー

草津市立 草津宿街道交流館

本日の内容

- ・ “穴村のもんやさん”と港
- ・ むかしの常盤と湖上交通

→ 港・湖上交通から見た「常盤」って？



『草津市史』より

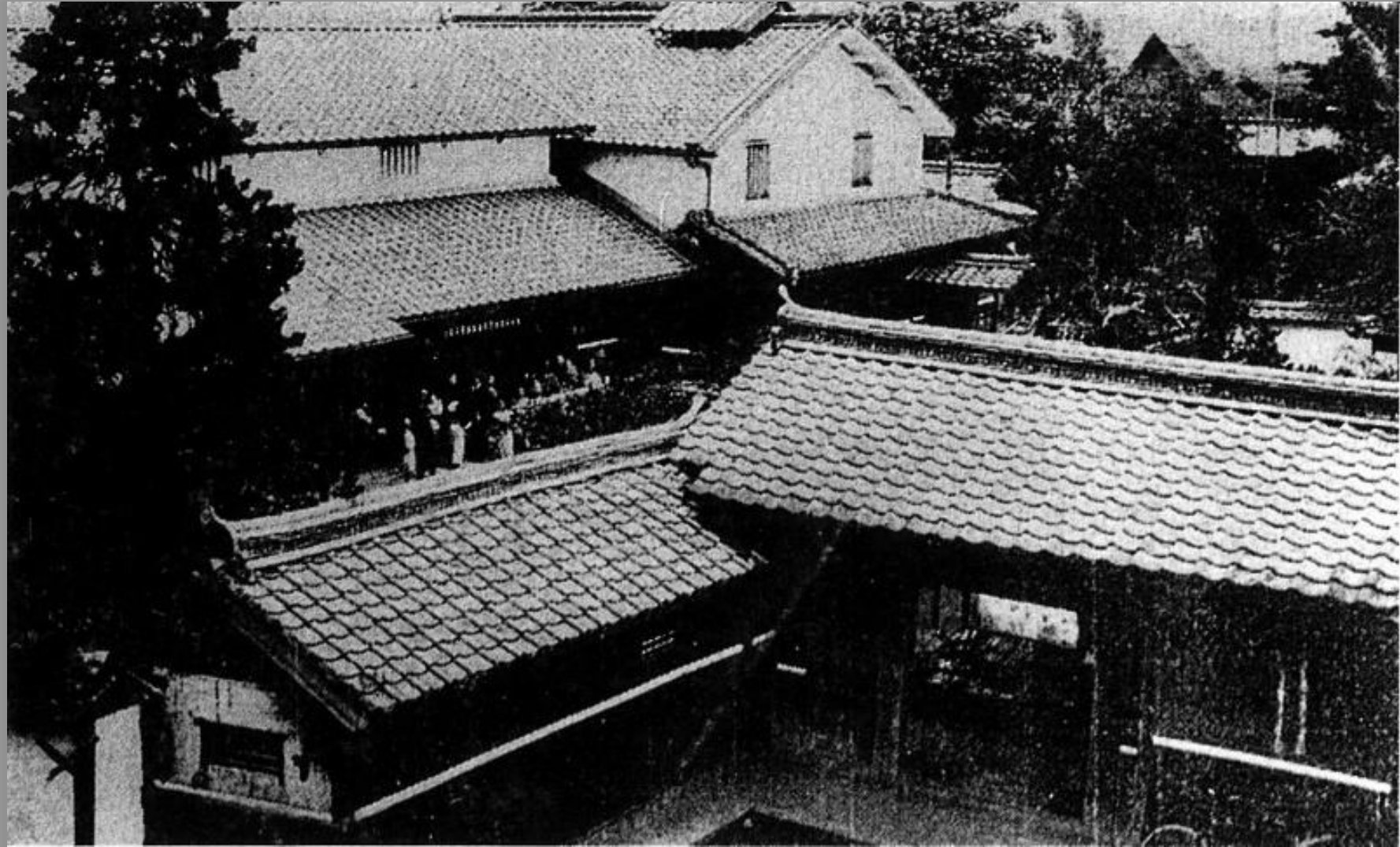
“穴村のもんやさん”と港

- ・ 穴村（現穴村町）で、小児用の灸を専門とした診療所
- ・ 熱を加える灸ではなく、墨を塗る「墨灸」=子ども向け
- ・ 跡が紋のように残るので「もんもん」→「もんやさん」

「京阪地方からの患者も多く、志那中港の茶店は繁盛し、
25台の人力車・**100**台の乳母車が貸し切り状態である」

『近江栗太郡志』大正**15**年刊

〈穴村のもんや〉（明治**42**年ごろ）



〈穴村港からの乗合馬車〉

昭和4年以降、乗合馬車が運行。港と医院を結んだ。



(現在)

〈汽船が着いた穴村港〉（大正末期）



（現在）

〈穴村港で船を待つ人々〉（昭和初年ごろ）



👉 ちなみに

なぜ、穴村で墨灸の治療が行われていたのか？

→ 「天日槍（あめのひぼこ）」伝説

垂仁天皇のころに来日したとされる新羅の王子、天日槍命が一時滞在した場所がこの「穴村」である、という説もある。穴村の安羅神社は、天日槍を「日本医術の祖神」とし、祭神としている。



「天日槍命暫住之聖蹟」碑
(安羅神社)

安羅神社 (やすらじんじゃ)



むかしの常盤と湖上交通

→常盤の港は湖上交通の要衝！

古代

- ・白鳳寺院の建立
- ・渡来文化とのつながり—伝承と伝説
芦浦観音寺 聖徳太子建立説
菜生（なさま）氏と聖徳太子

中世

- ・坂本—志那—守山を結ぶルート
- ・船奉行 芦浦観音寺
芦浦観音寺が、琵琶湖上で使われる船舶を管理する
「船奉行」として湖上を支配

志那の浜付近（昭和**46**年）



現在も残る湖岸の面影



蓮海寺

多くの人が湖を渡り、
蓮を愛でに来訪



近世

- ・ 観音寺の船帳に見える志那の船

志那村 **23**艘

加えて観音寺抱えの公用船として屋形船**1**艘、丸子船**3**艘

慶安**2**年（**1649**）「江州諸浦船数帳」

志那村 **55**艘（ひらた船）

延宝**5**年（**1677**）「江州湖水諸浦舟員数帳」

- ・ 「弁財丸」と船頭

寛永**11**年（**1634**）、三代将軍徳川家光の上洛にあたって造られた御用船。廃されるまで、志那村の船頭が管理した。

近代—汽船と穴村航路

穴村航路

- ・ 浜大津・紺屋関—穴村—野洲浦—木ノ浜—堅田—吉川
- ・ 湖南航路に比較してローカル、貨物が相当多い
- ・ 3～6月には釣客、5～8月には鮎遊びでにぎわう
- ・ 穴村の名灸に通う子供連れの女性客が多い
- ・ 墨灸のために訪れる客のため、京阪電車との連絡券がある

—『太湖汽船の五十年』 昭和**12**年刊

→汽船が発着することで、人の流れが志那港から
穴村港（志那中港）に移る

汽船と穴村港



〈湖南汽船株式会社〉琵琶湖・近江八景遊覧御案内（部分）

大正時代（個人蔵）

湖上交通の面影を探す — 閘門（港門）の現在

明治**38**年、瀬田の洗堰建設

→琵琶湖と内湖に水位差が発生
船の行き来を可能にするため、
水をせき止めて水位を調節した

現在は整備され、水路になっている
(矢印部分に木造扉の上部が見える)



常盤の特徴と湖上交通の移り変わり

古代 渡来文化とのつながり
白鳳寺院の建立

中世 坂本—志那—守山ルート
船奉行・芦浦観音寺

近世 多くの船を擁する港

近代 汽船の就航、穴村港と
”穴村のもんやさん”の賑わい

むかしの常盤

= 琵琶湖を通じて他の地域と繋がり、
湖を渡ってきた人たちでにぎわう地域

ご清聴ありがとうございました！